

ふれあい情報

速報

■発行 日本高齢・退職者団体連合(退職者連合)
 ■発行人 羽山 治美
 ■連絡先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11
 Tel:03-5295-0507 Fax:03-5295-0541
 <e-mail>taisuyokusharengo@sv.rengo-net.or.jp

2013年2月25日(月) 第159号

(速報の記事・写真の転載は自由。データが必要な場合は送付可)

第2回組織代表者会議

深まった地域の運動・経験交流

組織強化・拡大シンポジウム 2013 “ただ今、地域で奮闘中！”

退職者連合は、2月19日と20日の両日、都内のホテルで第2回組織代表者会議を開きました。参加者は中央・地方組織の代表者105名、連合本部からも総合組織局の高木禎之局長、篠原淳子局長、金田光弘次長の3名が出席しました。会議では2日間の主なテーマである「組織拡大・強化」について活発な意見交換が行なわれました。第1日目は連合の高木局長が「1000万連合実現の取り組み」を報告。続いて退職者連合本部から中央・地方での「組織拡大推進委員会」の設置状況について今後の方針とあわせて報告・提案されました。2日目はシンポジウム形式で行なわれ“ただ今、地域で奮闘中！”の4つの地方から組織拡大・強化に向けた事例報告を受け、さらに徳島県退連の小笠

原会長から「こうして拡大実績を上げました」という特別報告も受けました。



△梅村参議院議員

シンポは会場とのやり取りも含めて



地域での経験と運動交流の場となりました。なお19日には「日本の社会保障制度の課題と展望」と題して民主党の梅村聡参議院議員から講演を受けました。

民主党の再生と参院選勝利を訴え！

第1日目の主催者あいさつの冒頭、阿部保吉会長は福島・原発事故について触れ「福島を風化させてはならない」と強調、「被災者を皆で支え合おう」と引き続きの支援を訴えました。さらに会長は先の総選挙の結果

△あいさつする阿部会長(19日、都内)

を総括して「民主党の再生と再建が重要」との認識を示すとともに「そのためには選挙総括をきっちりやることだ。なぜ解散せざるを得なかったのか、掘り下げた議論が必要」と指摘しました。安倍自民政権に対しても「闘いが始まった。憲法、集团的自衛権問題、平和問題などで対峙していく」と対決姿勢を明らかにしました。また参議院選挙についても、「連合候補9名を絶対勝たせるために頑張っていかなければならない」と決意を表明しました。

共に手を取っていきたい

組織拡大に関連して連合・高木局長(写真)からは「1000万連合実現プラン」決定から今までの取り組みについて報告がありました。特に高木局長は2月18日に開催された連合事務局全体会議の勉強会で阿部会長が講師となり、退職者連合の紹介(別掲)をしたことに触れ、「これは連合結成以来22年、後にも先にも初めてのことで。親の来た道、子の来る道だ。現退一貫で連合と退職者連合が緊密にタグマッチを組んで進んでいくことが確認された」



△高木局長

＜第2回組織代表者会議・次第＞

(第1日目・19日)

1. 議長就任・会長挨拶
2. 報告
 - (1) 一般経過報告
 - ①3.5男女平等参画集会について
 - ②退職者連合3・19院内集会について
 - (2) ブロック報告
3. 講演

「日本の社会保障制度の課題と展望」
梅村 聡 参議院議員
4. 組織拡大・強化について
 - ①「1000万連合」実現に向けた取り組み報告 高木禎之 連合総合組織局長
 - ②「推進委員会」設置結果について
＜質疑・討論＞

(第2日目・20日)

5. 組織拡大・強化シンポジウム
＜質疑・討論＞
6. 集約

と述べ、「正直者がバカを見ない世の中を作るために、退職者連合の300万と連合1000万実現に向け共に手を取りながら取り組んでいきたい」と述べました。

全国で「推進委員会」設置進む！

＜地方46・中央21＞

第16回定期総会で決定された「組織拡大アクションプラン」に基づく「組織強化・拡大推進委員会」設置状況の結果が第1日目に報告されました。2月12日現在のまとめでは、新たに設置した地方退職者連合が38都道府県にのぼり、既存組織で対応するところが5地方、設置へ検討中が3地方となっています。拡大に向け46地方が積極的に対応しています。

一方、中央退職者組織では、10組織が設置し、既存組織で対応が8組織、検討中が3組織という結果になっています。

○地方退職者連合 (47 都道府県)

- ①設置 (38 地方)
北海道、青森、秋田、宮城、山形、福島、茨城、千葉、東京、神奈川、埼玉、栃木、山梨、長野、静岡、岐阜、愛知、三重、石川、福井、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、岡山、鳥取、山口、香川、徳島、愛媛、高知、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、沖縄。
- ②既存組織で対応 (5 地方)
新潟、兵庫、広島、島根、鹿児島。
- ③検討中 (3 地方)
群馬、富山、長崎。

④設置せず (1 地方)
岩手。

○中央退職者組織 (25 団体)

- ①設置 (10 組織)
鉄道退、全国退女教、林退会、UAゼンセン友の会、都市交退協、JAMシニアクラブ、PUC退職者の会、全印刷局退、全造船高退協、JR総連OB連。
- ②既存組織で対応 (8 組織)
自治退、NTT労組退、郵政退協、日退教、JR連合退、電機連合OB会、農水退、全たばこ退。
- ③検討中 (3 組織)
私鉄高退協、全水道、ゼミックスOB。
- ④その他 (4 組織)
日産エムダ、N退協、総評OB会、基幹労連・非鉄部門退。

各地で学習会開く

組織拡大のための「推進委員会」の設置と合わせて全国各地で拡大に向けた学習会が取り組まれていることが報告されました。

すでに1月には、東京高退連と北海道高退連が相次いで開催し、石川県退連、九州ブロックと続いています。今後、推進委員会の活動が広がるにつれて、こうした学習会や研修会が各地で開かれる見通しです。

なお退職者連合本部としても学習会等の開催にあたっては積極的に協力することとしています。



△会場から多くの意見・質問がでた。(20日)



△司会者と各パネラーのみなさん

■組織強化・拡大シンポ 2013
 <地域の事例報告>

「お知恵拝借」 で悩み解決を

第2日目は、地域における組織拡大・強化の運動交流として「ただ今、地域で奮闘中！」と題するシンポジウムが開かれました。

組織強化委員会でヒアリングした4つの地方退職者組織から神奈川シニア連合・池田捷治事務局長、福岡県退連・檀勝樹事務局長、北海道退職者連合・富山隆事務局長、石川県退連・船塚俊克事務局長次長（連合石川副事務局長）をパネラーに羽山治美事務局長のコーディネートで進行しました。シンポでは最初に羽山事務局長が、企画のねらいについて次のよう



△羽山事務局長

に触れました。「2つあります。1つは、地域で組織拡大に積極的に取り組む4つの実践事例について全体化、共通化することを通して各地で抱える悩みや問題を解決するための“お知恵拝借”となるような運動交流の場に

たいことです。2つ目は、本日ご参加いただいている中央退職者組織の皆さんに、地域での取り組み実態を知っていただき、中央と地方がしっか”心合わせ”していただくこと」と述べました。

また、4つの地域の取り組みの特徴として拡大推進の態勢づくりをベースに、神奈川では中長期の拡大目標の設定、福岡では7地協を軸とした取り組み、北海道では31地区での取り組み、石川の場合は、県や全9市への自治体要請、ボランティア委員会の里山保全活動などを紹介しました。さらに討論していただく課題として①なぜ地協での取り組みなのか②連合との連携③地域でのさまざまな取り組み④個人加盟と会員名簿についての考え、などをあげました。

組織強化・拡大シンポ 2013

パネラーの発言 (要旨)

7地協に役員配置、 地協役員OB会結成へ

福岡県退連
 事務局長 檀 勝樹

福退連では、連合福岡の支援のもとに県内7カ所に7地協を設置し、そのすべてに退職者会から会長・事

務局長を配置した。福退連の組織拡大については2つある。1つは、加入のメリットとして労金や全労済と連携した福退連会員への福祉の増進、とくに労福協との提携事業団体の利用券の活用がある。2つ目は、県福退連、地協の組織充実強化だ。また政策・制度要求の取り組みでは福岡県高齢者保健福祉計画の検証、改善要求の取り組みや市町村の介護事業に対する改善要求の取り組みがある。

地協の組織・運動の活性化に向けては①地協役員OB会の結成②ライフサポートセンター事業への参画③個人加盟などの検討を行っている。

組織拡大に向けては福退連に組織対策専門部会を設置した。これには連合福岡



△檀事務局長

の副事務局長が参加している。また、各構成組織内に加入対策委員会を設置した。

組織拡大で大事なことは、調査して会員数の本当の実態を知ることだ。その際、会員数と会費と連動させないように注意する必要がある。

今後の課題としては、連合福岡と福退連で「合同組織対策委員会」の設置を検討している。とくに連合福岡役員・地協役員経験者で退職した方の名簿作成と整理、福退連への個別加入対策を行っていききたい。

組織拡大・強化計画を策定

神奈川シニア連合
事務局長 池田捷治

神奈川シニア連合では、1997年に組織強化検討委員会を立ち上げ、現職産別訪問オルグなどを実施してきた。会員数は結成20年間で10,788人の増加となっている。

結成30周年までの10年間で達成する長期目標としては、6万会員、中期目標(3年間)では3万5千会員を目指す組織拡大・強化計画を作った。またこの計画を確実に推進していくために今回新たに「神奈川シニア連合・組織拡大・推進委員会」を立ち上げた。委員会で推進する具体的な項目としては、①退職者連合が提起している事項②現役組織への要請行動③産別・単組数の拡大目標④産別ごとの拡大目標⑤労福協・労金・全労済との連携(労金・全労済の組織化の要請)⑥地域退職者組織の結成促進がある。

課題としては、①新規産別の加入促進②直加盟組織対策③加入産別内の各単組加入促進がある。とくに産別の中で退職者組織の拡大についてのどのような方針を持っているのか調査が必要だ。ただ地域の取り組みはうまくいっておらず、これからの大きなテーマだ。連合神奈川との関係では、毎週月曜日に開かれる事務局会議に毎回参加している。また神奈



△池田事務局長

川シニア連合の4役の中に連合神奈川の副事務局長が次長として参加してもらっている。

各地区に組織強化委員会設置へ

北海道退職者連合
事務局長 富山 隆



△富山事務局長

道退職者連合の地区組織は、連合北海道の地区連合と連携し「地区退職者連合」として結成された。1994年の第2回総会では23地区31,106会員だったが、現在、31地区36,628会員となっている。将来はこれを40地区にしたい。しかし内容を見るとこの10年間で30%以上減少している地区が7カ所、一方会員が拡大している地区が11カ所あり、地区の運動の格差がでており、統計資料の分析が必要だ。

問題は、各地区の執行体制だ。中には地区連合の現職役員が兼務している地区も多くあり、兼務でなく退職者会で自立をはかるべきだと考えており、各地区の役員体制の確立に努力している。事務局体制では60代の役員を確立していくことが大事だ。連合との関係では、連合北海道の中執の前に開かれる常任役員会に道退職者連合の事務局長が出席している。今後の課題としては、各地区に①組織強化委員会を設置すること②未加盟産別の会員拡大に向けた産別退職者会との連携がある。道退職者連合の組織拡大推進委員会は、本年1月に設置した。委員会には連合北海道から担当役員2名がオブザーバー参加している。またきめ細かい対応を行うために推進委員会の中に企画委員会を設置した。自治体要請では、道のほかに地区でも市長要請を

行っている。

元気な高齢者を使って!

石川県退連
事務局次長 船塚俊克

石川県退連では独自に県と9つの市に対し「元気な高齢者を有効活用していただきたい」という統一キャッチで要請を行っている。対市要求では「一般公衆浴場等の利用の銭湯入浴補助券の再考」や「いしかわ森林環境税」(県民1人当たり年500円)を活用した里山保全活動や森林ボランティア団体などへの有効利用促進を求めている。また金沢市などの5市には、「地域包括支援センター運営協議会」など高齢者問題等に関



△船塚事務局次長

する各種審議会への石川県退連の代表者の委員参加を求めている。要請には、連合石川推進議員団31名が連携している。

一方、ボランティア委員会が中心となって県内4つの拠点で里山保全活動(竹林伐採活動)に取り組んでいる。また生物多様性再生事業協議会にも役員を派遣して県の事業に協力している。連合石川、労福協、労金、全労済などとの連携やライフサポートセンター事業、石川介護ボランティアセンター活動にも協力している。組織拡大委員会では、4つの産別をターゲットに拡大の取り組みをおこなっている。地域組織は、まだ設置していないが、すぐに立ち上げることができる地域が2つあり、対応していきたい。

〈特別報告〉 (要旨)

こうして拡大実績をあげました。

徳島県高退連
会長 小笠原幸雄

昨年、徳島では3組織327人の会員拡大をした。現在1組織を拡大中。徳島の会員数は7,500名だけに、この拡大の意義は大きい。特に女性の参加が大変多い。

具体的には、まず自治労県本部や自治退と協力して美馬市と吉野川市で退職者組織を結成したことだ。また三好市でも明るい展望が見えている。さらに全国山林労働組合の退職者の皆さんの結集も実現した。

昨年は、南部地協を1,110名で結成した。

組織拡大が一応順調に進んでいるのは、何と云っても連合徳島の日常的な「親密な関係」と「良好な信頼関係」がある。一つは、連合徳島の事務局会議に会長の私（高退連として）と山藤事務局長（連合アドバイザーとして）の2名が常時参加していること。また連合徳島主催の行動や行事などに高退連として積極的に参加していることだ。

拡大目標は1万人。組織化対象は14組織。今後、組織拡大・強化推進委員会を軸にして民間退職者会の組織化、一人でも加入できるユニオン組織づくり、加盟組織での会員拡大、とくに再雇用制度対策など今後の退職予定者の加入促進を現役組織と連携して対応していきたい。



△小笠原会長

〈シンポでの主な意見・質問〉

シンポでは、会場から7つの各代表から以下のような意見・質問、要望がありました。(以下は発言要旨)

○退職者連合では300万組織をめざし、組織拡大に取り組んでいる。組織拡大にむけてオルグ活動を計画しているが、構成組織の意向もあり、オルグ活動が進まない。

○退職者会を設置していない構成組織・産別に対し、連合本部として強く要請・指示をお願いしたい。

○構成組織の協力がないと、オルグ活動もできないし、組織拡大もできない。連合本部から構成組織にオルグ活動ができるよう働きかけをして欲しい。

○地方連合会の事務局長にも、組織加入の口添えをお願いしたが、連合本部からの「アクションが先である」との回答で、先に進めない。

○参議院選挙対応について、退職者

会なりに全力で対応する気持ちは充分ある。そのためには、OBをまとめる(組織化)ことが重要であるが、協力体制は期待レベルには至っていない。

〈羽山事務局長のまとめ〉

社会的影響力のある組織づくりが鍵

ターニングポイントを迎えた退職者連合

昨年の定期総会で退職者連合結成30周年までに300万会員の実現をめざしていこうと「アクションプラン」を決め、組織強化・拡大に取り組んできました。昨日も連合の高木局長から報告がありましたが、この取り組みは、連合1000万実現プランと一体であり、退職者連合と連合はまさに「現退一貫」で進めていかなければならないということです。

結成以来、20年を経た退職者連合は、いま、組織的にも運動的にも大



△組織拡大へ中央・地方が心合わせ(20日)

きなターニングポイントを迎えているといえます。今年の1月18日、国立社会保障・人口問題研究所が発表した推計によると65歳以上の人口が2010年に約2割だったのが2030年には約4割を占めるとのことです。4人に1人が高齢者という時代の到来です。

求められる意識改革

こうした中で、これから10年後の退職者連合の姿を考えた時、安心して老後をおくれる年金、医療・介護といった政策面の充実や生きがいづくりなど地域での活動の強化を通して、退職者連合が社会的に影響のある組織として大きく成長しているかどうかが鍵となります。

まさに退職者連合の組織拡大・強化の取り組みは、「力と政策」の実現に向けた私たちの最優先課題です。そのためには、退職者連合本部、中央組織、地方組織のすべてに「意識改革」が求められています。

まずは退職者連合に結集するすべての組織が、「自ら組織拡大・強化のためには何ができるのか」を考え「積極的に動いてみる」こと、自らが「実践する」ことが大事だと思います。

その意味で、今日のシンポジウムで地域での取り組みの「心合わせ」「力合わせ」ができたのではないかと思います。

退職者連合の組織強化・拡大は、まだスタートラインに立ったばかりです。これからも中央と地方が一体となって奮闘していかなければ300万退職者連合は実現しません。退職者連合本部もその先頭でがんばっていききたいと思います。



～連合事務局全体会議・勉強会～

こんにちは退職者連合です。

阿部会長が講演

連合本部では結成以来、毎月定例の事務局全体会議を開いています。全体会議では会長や事務局長から最新の情勢報告を受けたり、時々主要な政策、行動などについて意思統一をはかっています。あわせて勉強会も実施し、各局の政策や運動課題について全員で学ぶことにしています。

2月18日に連合本部で開かれた2月定例事務局全体会議の勉強会では、退職者連合がテーマに取り上げられました。講師は、阿部保吉会長。

会長は、「こんにちは退職者連合です」と題した資料や「組織強化・拡大アクションプラン」の内容を紹介しながら、退職者連合の結成からその後の主な経過、歴代役員など連合との密接な関係について解説。さらには退職者連合の政策や活動について約30分にわたって事務局スタッフに紹介しました。

連合事務局全体会議の場で退職者連合が取り上げられたのは、連合結成以来、初めてのことです。

なお、情報関係を密にするため退職者連合のふれあい情報・速報も発行され次第、連合事務局全員に配布しています。



安倍自民党政権と対決へ

3・19院内集會に結集を!

第7回常任幹事会で決まる

2月12日に開催した退職者連合第7回常任幹事会は、来る3月19日、衆議院第2議員会館において後期高齢者医療制度の廃止、社会保障制度充実・参院選挙勝利の対政府要求実現院内集會を開催することを決めました。これは安倍自民党政権が生活保護費の削減など社会保障水準の引き下げを強行しようとしていることに対決し、今春の闘いとして退職者連合の要求の前進をはかるためです。

また常任幹事会では、集會宣言を受けてただちに対政府申し入れを実施するとともにこの院内集會を今秋9・15全国高齢者集會など、全国レベルでの行動につなげていくことも確認しました。

なお参加体制は、中央退職者組織及び東京近辺の地方退職者組織とします。

○実施内容○

1. 日時 2013年3月19日(火)
14:00～
2. 会場 衆議院第2議員会館1階
「多目的会議室」
3. 集會名 「後期高齢者医療制度廃止・社会保障制度充実・参院選挙勝利! 退職者連合3.19院内集會」
4. 来賓 連合・民主党・社民党
5. 決意表明 参院選立候補予定議員及び候補者がいる構成組織